

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

がん診療連携拠点病院等におけるがん診療の実態把握に係る  
適切な評価指標の確立に資する研究（22EA1005）

研究分担者 津端 由佳里 島根大学 呼吸器・化学療法内科 講師

研究要旨

本研究は、がん診療連携拠点病院等（拠点病院等）に関するがん診療の実態を継続的に把握・評価できる適切な評価指標の開発・選定を通じて、「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」にエビデンスを提出し、次期整備指針の策定や「がん対策推進基本計画（基本計画）」の推進に寄与することを目的とする。昨年度は4回の全体会議、腫瘍内科医・地方の拠点病院の活動に関する立場からロジックモデルを用いた指標作成に参画し、島根県・北海道のがん拠点病院へのインタビュー調査に参加した。さらに、拠点病院の活動実態の評価のために必要な指標や現場が評価を望む活動等について、全国拠点病院を対象としてアンケート調査を行い、133の拠点病院から回答を得た。これらの結果、拠点病院の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の基準や地域内での偏在、外来化学療法室の利用率や利用した患者の満足度について新たに適切な評価指標は必要であることが明らかとなった。引き続き、次期整備指針策定や基本計画の推進に寄与することを目的とし、本研究の推進が望まれる。

A. 研究目的

本研究は、がん診療連携拠点病院等（拠点病院等）に関するがん診療の実態を継続的に把握・評価できる適切な評価指標の開発・選定を通じて、「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」にエビデンスを提出し、次期整備指針の策定や「がん対策推進基本計画（基本計画）」の推進に寄与することを目的とする。

B. 研究方法

1. 拠点病院の整備指針をベースとしたロジックモデル（たたき台）の作成

- 1) 研究班メンバーによるコンセンサスの形成
- 2) 全国拠点病院、都道府県がん診療連携協議会、都県行政の現場へのインタビュー調査
- 3) 拠点病院の活動に関わる厚労科研・研究班の研究代表者等へのインタビュー調査  
（1）～3）は、昨年度からの継続）
- 4) 以上の結果をまとめて、ロジックモデルの原案（たたき台）を完成させる。

2. 拠点病院等に対するアンケート調査の計画

1. で整理された指標を含むロジックモデル（たたき台）を提示して、拠点病院の活動実態の評価のために必要な指標や現場が評価を望む活動等について、全国拠点病院を対象としてアンケート調査を行う。

（倫理面への配慮）

本研究における情報の分析・調査については、施設

へのアンケート調査を原則とするため、個人情報保護上は特に問題は発生しないと考ええる。

C. 研究結果

昨年度は4回の全体会議に参加し、ロジックモデルの作成において、整備指針の各領域別に、各指定要件とそれらが目指す中間アウトカム・分野別アウトカムに関して議論し、研究班メンバーのコンセンサスの形成に参画した。また、島根県・北海道のがん拠点病院へのインタビュー調査に参加し、腫瘍内科医・地方の拠点病院の活動に関する立場で現場から直接意見を収集することで、多様な意見を得、その内容を可能な限りロジックモデルに組み入れた。

このロジックモデル（現時点でのたたき台）を提示して、拠点病院の活動実態の評価のために必要な指標や現場が評価を望む活動等について全国拠点病院を対象としてアンケート調査を行い、133の拠点病院から回答を得た。

今後、その内容を解析し、ロジックモデルに組み込むことで、ロジックモデル最終案を策定する予定である。

D. 考察

全国の拠点病院の現場責任者・各現場スタッフや都道府県がん診療連携協議会へのインタビュー調査へ参加し、整備指針には、薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師を専従で1人以上配置するよう記載されているが、「専門的な知識及び

技能」の基準や地域内での偏在があり、適正な配置を推進するための方策を検討する必要があることが分かった。また、外来化学療法室の利用率や利用した患者の満足度については現在の現況報告では正確に把握することが困難である。さらに、免疫関連有害事象をはじめとした薬物療法の副作用対策並びに支持療法の提供体制に関する適切な評価指標に関してあらためて議論する必要性が明らかとなった。これらに関してはロジックモデル(たたき台)に反映させたが、さらに次年度では、アンケート調査で収集した全国の拠点病院の意見を組み込み、ロジックモデルを完成させることが重要である。

## E. 結論

本研究において、拠点病院等の活動に特化した適切な評価指標を開発・選定することにより、拠点病院等が提供するがん診療の質を客観的に評価できる。策定した評価指標が拠点病院等の現況報告に組み入れられ、拠点病院等の活動実態のより明確な評価に繋がれば、各拠点病院等における診療の質の向上に実質的に大きく貢献する継続的なPDCAサイクルの促進に繋がる。さらに、評価指標を継続的に調査することで、それぞれの地域のがん診療の実態や問題点の把握が可能となり、各拠点病院等自体が提供するがん診療の質の向上に資すると期待される。また、拠点病院等の現場が評価を望む指標も取り入れることで、自らのモチベーションや満足度の向上とともに、現場の医療者等の視点を入れた診療の質

を向上させる新たな重要指標の発見や開発に繋がる可能性もある。

以上を通じて、拠点病院等の次期整備指針の策定や、新たな評価指標の測定に基づく拠点病院等の適切な指定のあり方やがん対策推進基本計画の策定のためのエビデンスの提供を行うことができることから、引き続き本研究の推進が望まれる。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし